

決算説明会

2010年3月期第1四半期

2009年8月7日
ミネベア株式会社



1Q連結業績ハイライト

・市場での在庫調整が終了し、前4Q比で販売が増加、赤字縮小

(百万円)	2009年3月期		2010年3月期	前年同期比	前四半期比
	1Q	4Q	1Q	伸び率	伸び率
売上高	74,041	46,384	51,837	-30.0%	+11.8%
営業利益	5,083	△2,824	△605	N.A.	N.A.
経常利益	4,685	△3,430	△1,101	N.A.	N.A.
税引前利益	4,057	△6,187	△1,370	N.A.	N.A.
四半期純利益	2,635	△6,211	△1,680	N.A.	N.A.
一株当たり 四半期純利益(円)	6.60	△15.61	△4.32	N.A.	N.A.

為替レート	09/3期1Q	09/3期4Q	10/3期1Q
US\$	103.36円	92.80円	97.50円
ユーロ	161.48円	122.57円	131.56円
タイバツ	3.24円	2.63円	2.78円
人民元	14.72円	13.54円	14.28円

2009年8月7日

1



2010年3月期第1四半期の連結業績は、販売の回復により売上高が前第4四半期比11.8%増の518億3,700万円となりました。

損益面では、営業損失6億500万円、四半期純損失16億8,000万円と、前第4四半期に比べ大きく赤字が縮小しました。

世界同時不況の影響により販売が大きく減少し、さらに前第4四半期では当社における在庫調整のため、販売数量を大きく下回る減産を実施した結果、製造原価が上昇してしまいました。

しかし、第1四半期に入り販売が増加し、さらに生産数量も販売数量に合わせて増産を実施しました。それでも一部製品においては、前第4四半期での在庫調整による製造原価高の影響が第1四半期まで大きく残ってしまいました。

第2四半期においては、当社の在庫調整による製造原価高の影響が終了いたします。販売もさらに増加するものと見込んでおります。

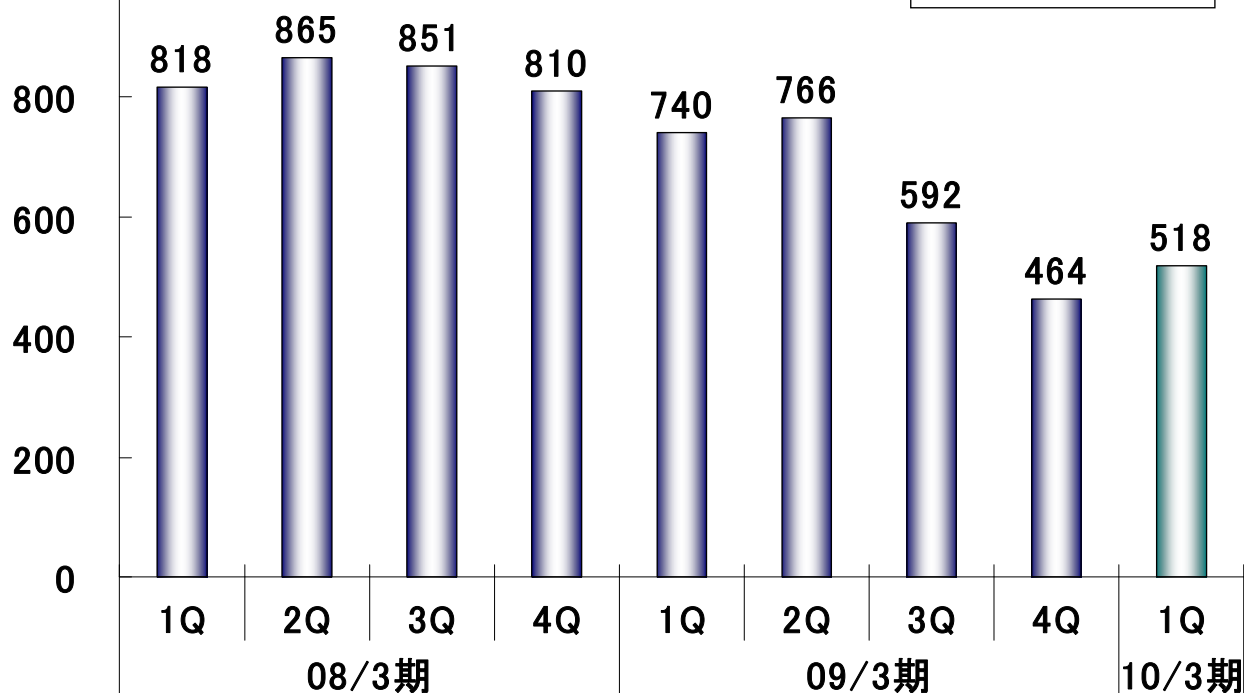
四半期推移

売上高

(億円)

1,000

前年同期比 -30.0%
前四半期比 +11.8%



2009年8月7日

2



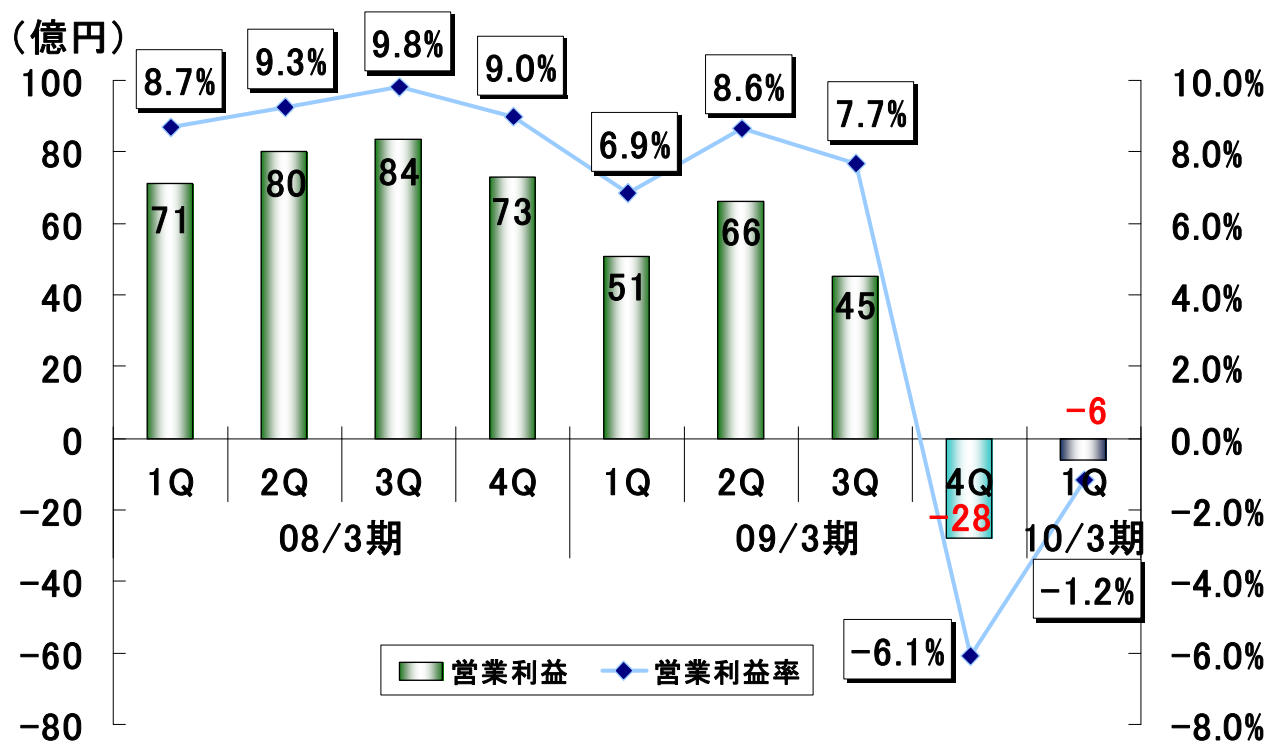
世界同時不況の影響により、前第3四半期から売上高が大きく減少していましたが、前第4四半期で底を打ち、第1四半期から販売が増加いたしました。第1四半期の売上高は前第4四半期比で11.8%増の518億円となりました。

製品では特に、ボールベアリング、ピボットアッセンブリーの売上高が大きく増加しました。

売上への為替影響は、前第4四半期比で約20億円のプラスの影響、前年同期比で約48億円のマイナスの影響となりました。

四半期推移

営業利益



2009年8月7日

3

Minebea

世界同時不況の影響により前第3四半期から営業利益が減少し、前第4四半期では28億円の大きな損失となりました。しかし第1四半期では販売と生産の増加に加え、様々なコスト削減策を進めた結果、前第4四半期比で22億円改善し、6億円の損失となりました。営業利益率も、4.9ポイント改善し、-1.2%まで回復しました。

第1四半期では、前第4四半期での在庫調整による製造原価高の影響が一部製品に大きく残ってしまいましたが、第2四半期以降はこうした影響は残らないものと見ております。

営業利益への為替影響は、前第4四半期比で約4億円のマイナスの影響、前年同期比では約12億円のプラスの影響が出ています。

セグメント別業績比較

	(百万円)	09年3月期	10年3月期	前年同期比	売上高減少 vs 営業利益減少
		1Q	1Q	減少額	
機械加工品	売上高	33,253	24,314	△ 8,939	49.0%
	営業利益	5,583	1,200	△ 4,383	
電子機器	売上高	40,787	27,523	△ 13,264	9.8%
	営業利益	△ 500	△ 1,806	△ 1,306	

※機械加工品セグメント

前年同期比営業利益減少要因

- ・装置産業固有の減少要因
- ・売上高減少が営業利益減少に大きく影響した

今後の見通し

- ・市場の回復と共に、売上高増加
- ⇒ 急速な営業利益回復を期待

2009年8月7日

4

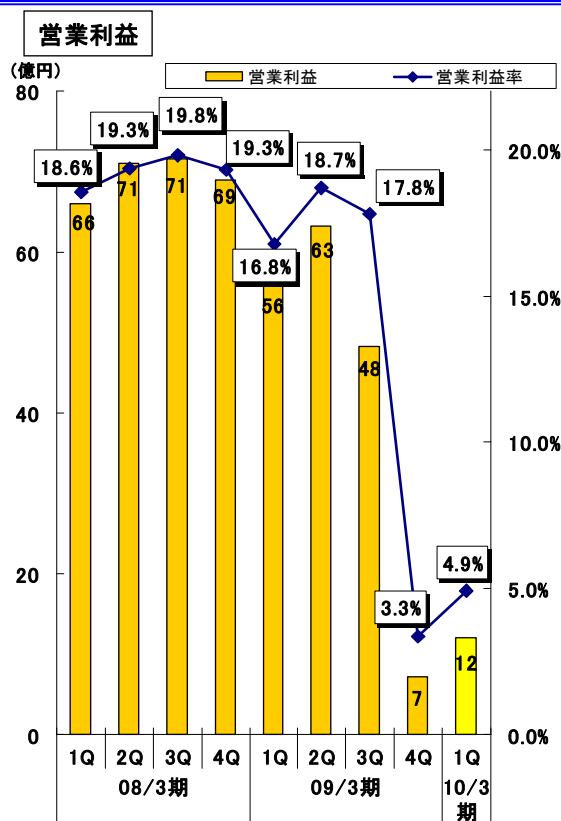
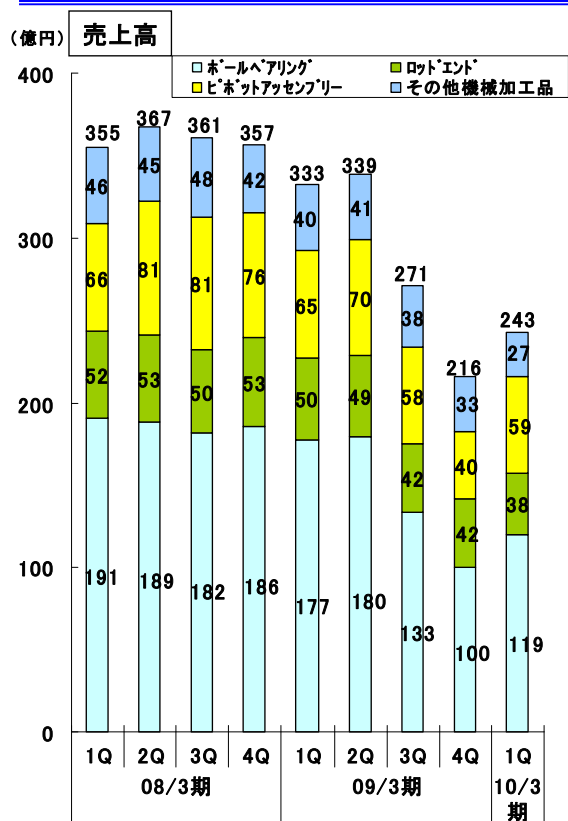


電子機器セグメントは、売上高減少に対する営業利益減少の比率が9.8%でした。

一方、機械加工品セグメントは、装置産業固有の要因として固定費の割合が大きく、売上高減少が一定水準を超えたため営業利益は大きく減少しました。これにより、前年同期比での売上高減少に対する営業利益減少の比率は49.0%となりました。

市場の回復と共に、機械加工品セグメント売上高の増加が見込まれ、売上高が一定水準を超えると、営業利益の急速な回復が見込まれます。

セグメント別四半期推移 機械加工品事業



2009年8月7日

5



機械加工品事業セグメントの第1四半期の売上高は、前第4四半期に比べて28億円、12.8%増の243億円となりました。世界同時不況により前第3半期から販売が減少していましたが、前第4四半期を底にボールベアリング、ピボットアッセンブリーの販売が大きく増加しました。

営業利益でも、前第4四半期に比べて5億円、66.4%増の12億円となり、営業利益率も1.6ポイント上昇の4.9%となりました。生産・販売が増加したことに加えて、様々なコスト削減策の効果も現れてきております。

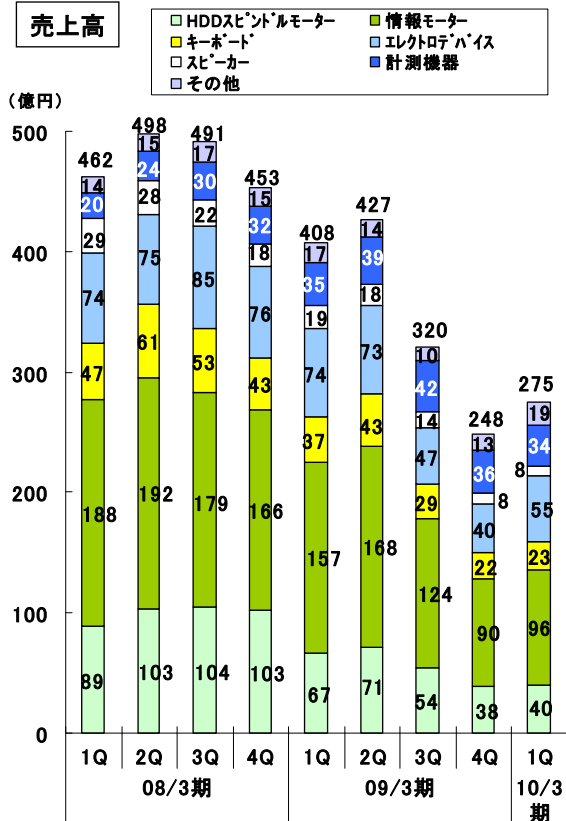
製品別では、ボールベアリングの第1四半期売上高は、前年同期比で32.8%の減少でしたが、前第4四半期比では19.0%の増加となりました。ミニチュア・小径ボールベアリングの外部販売数量は第1四半期に入り月を追うごとに増加しました。第2四半期も第1四半期に比べ、さらに販売数量が増加するものと見込んでおります。利益面でも第1四半期は、前第4四半期での在庫調整による製造原価高の影響がかなり大きく残ったものの、売上の増加、コスト削減策の推進により、前第4四半期に比べて利益が増加しました。今後とも更なるコスト削減、効率化をスピードを持って推し進めていきます。

ロッドエンド&スフェリカル・ベアリングの第1四半期売上高は、前年同期比で円高USDドル安が大きく影響し、24.0%の減少、前第4四半期比では市場の縮小に伴う販売の減少により9.5%の減少となりました。利益面でも、前第4四半期に比べ利益は減少しました。しかし航空機市場が中長期的に成長していくことを踏まえれば、現在の厳しい市場環境はシェア拡大の絶好のチャンスと捉えることもできます。今後とも設備投資や積極的な受注活動を図っていきます。

ピボットアッセンブリーの第1四半期売上高は、前年同期比で円高USDドル安などの為替影響があり9.2%の減少でしたが、前第4四半期比では47.5%と大きく増加しました。HDD市場での販売増加や在庫調整の終了を受け、ピボットアッセンブリーの販売数量は4月から大きく増加に転じました。第2四半期についても、第1四半期に比べさらに販売数量が増加するものと見込んでおります。利益面では、第1四半期は前第4四半期に比べ販売数量が増加したことと、徹底した合理化や経費削減に努めたことにより、利益は大きく改善しました。今後とも更なるコスト削減、効率化に努めてまいります。

セグメント別四半期推移 電子機器事業

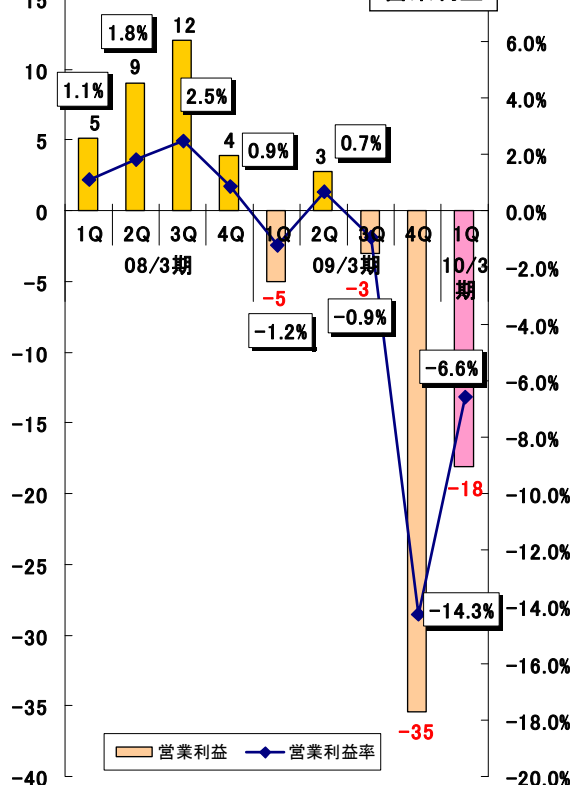
売上高



2009年8月7日

(億円)

営業利益



6



電子機器事業セグメントの第1四半期の売上高は、前第4四半期に比べて27億円、10.9%増加の275億円となりました。世界同時不況により前第3四半期から販売が減少していましたが、前第4四半期を底に増加しました。

営業利益段階では、前第4四半期に比べて17億円改善し、18億円の損失となりました。第1四半期に入り販売が増加しつつあり、生産もこれに合わせて回復させています。また、様々なコスト削減策の効果も現れてきております。

製品別では、HDDスピンドルモーターの第1四半期売上高は、前年同期比では40.3%の減少でしたが、前第4四半期比では5.3%の増加となりました。前年同期比では販売数量が大きく減少したこと、円高などの為替変動が影響しました。しかし販売の減少は前第4四半期と第1四半期で底を打ち、7月以降は、高付加価値製品である2.5インチ向けの販売数量などが増加し、さらなる製品ミックスの改善につながると見込んでおります。利益面では、生産数量の増加や、製品ミックスの改善、歩留まり向上、人員見直しを含むコスト構造改善に努めた結果、前第4四半期に比べ赤字幅は大きく縮小しました。引き続き、収支改善に取り組んでまいります。

情報モーターの第1四半期売上高は、前年同期比では世界同時不況の影響が大きく、38.9%の減少でしたが、前第4四半期比では販売が増加し、6.7%の増加となりました。利益面でも、一部製品でミックスの悪化があったものの、生産・販売数量の増加やコスト削減に努めた結果、前第4四半期比で赤字が縮小しました。今後とも製品ミックスの改善、コスト削減、効率化に努めていきます。

キーボードの第1四半期の売上高は、前年同期比37.8%の減少でしたが、前第4四半期比では2月を底に販売が増加し4.5%の増加となりました。利益面でも、当社内部の在庫調整が終了し販売に合わせた生産数量に回復したことから、前第4四半期比で赤字が縮小しました。製品ミックスの改善、コスト削減、品質改善を押し進めていきます。

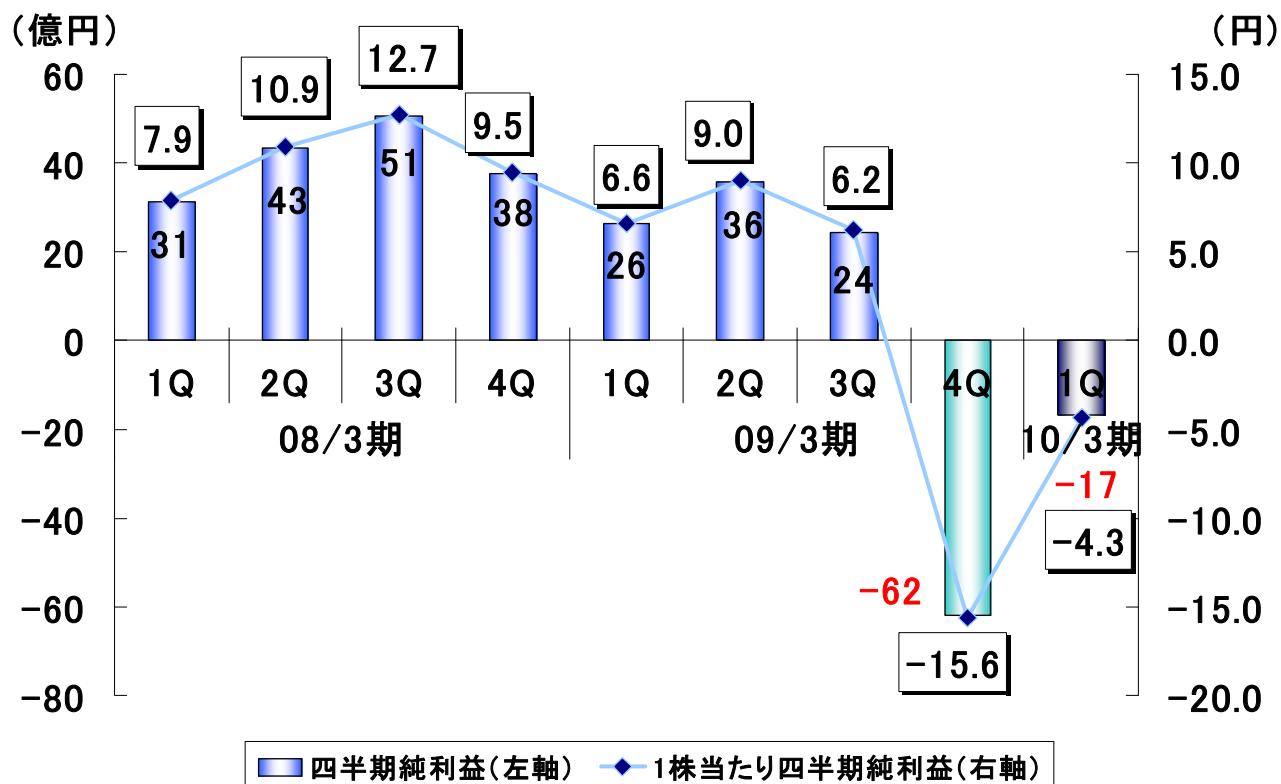
エレクトロデバイスの第1四半期売上高は、前年同期比25.7%の減少でしたが、前第4四半期比では37.5%の大幅な増加となりました。LEDバックライトの販売が大きく増加しており、大型液晶TV向けインバーターも増加しました。利益面でも、黒字となりました。尚、LEDバックライトにつきましては、第2四半期にはさらに販売が拡大する見込みであり、内製化や生産能力の増強に努めていきます。

スピーカーの第1四半期売上高は、前年同期比57.9%の減少、前第4四半期比では横ばいとなりました。昨年9月にタイでの自社生産を終了し、100%外注委託生産へ移行したものの、売上の減少により、利益面では前第4四半期に引き続き赤字でした。

計測機器の第1四半期売上高は、前年同期比2.9%の減少、前第4四半期比5.6%の減少となりました。これは、自動車向け製品や工作機械向け製品は販売が減少したものの、新アプリケーション向け製品販売が堅調なことが主な要因です。利益は前第4四半期に比べほぼ横ばいでした。

四半期推移

四半期純利益



2009年8月7日

7



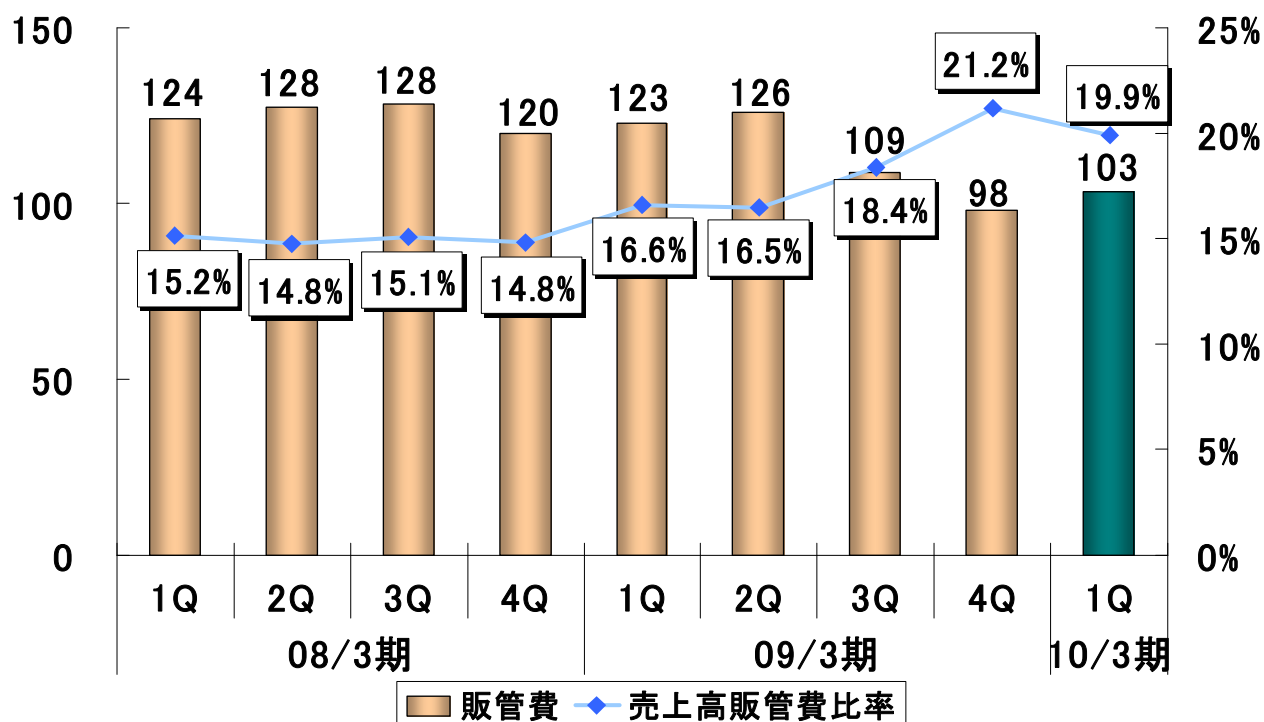
第1四半期は、当期純損失が前第4四半期に比べて45億円改善の17億円の損失、一株当たり四半期純損失は前第4四半期比で11.3円改善し、4.3円の損失となりました。

これは、営業利益の大幅改善に加えて、前第4四半期に比べ大きな特損がなかったためです。

四半期推移

販管費

(億円)



2009年8月7日

8



第1四半期は、前第4四半期と比べて5億円増加の103億円となりました。

販管費および経費の抑制に努めており、売上高販管比率は1.3ポイント低下の19.9%となりました。

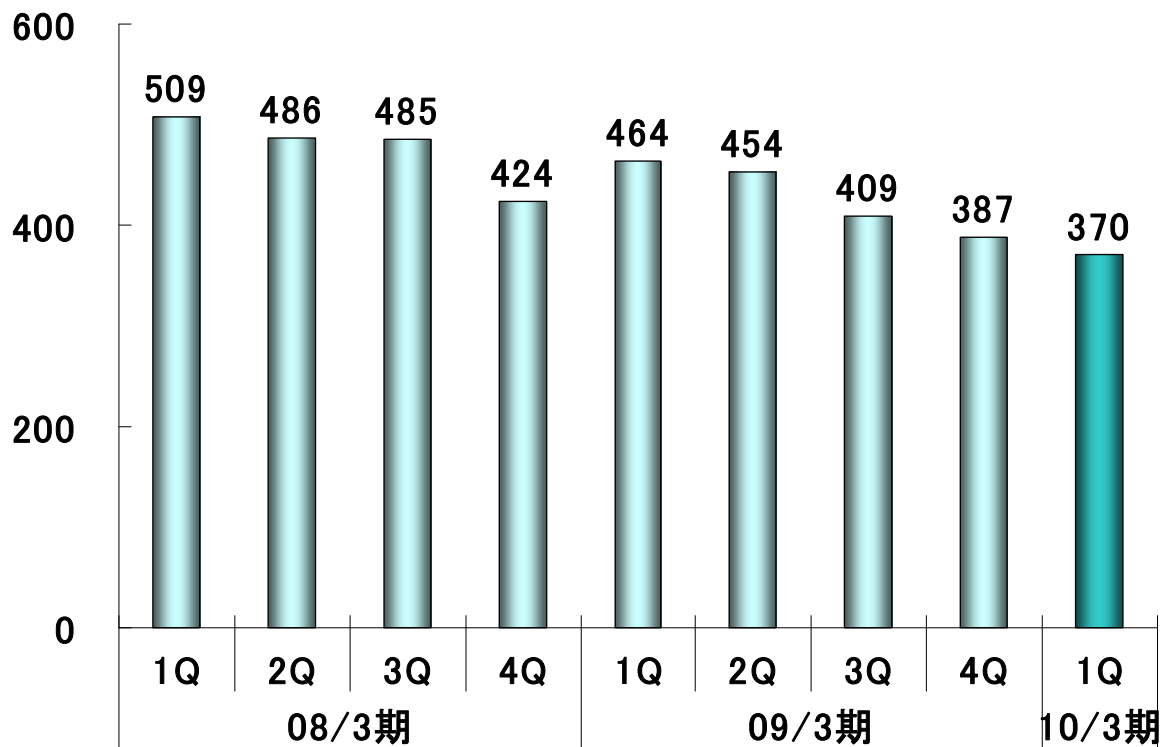
また6月に行った組織改正の中で、費用削減推進室を創設しました。販管費及びその他の費用削減について、トップダウンとボトムアップの双方から削減項目を策定し、全社を挙げて推進しております。

今後、この効果が現れてくるものと思われま。

四半期推移

たな卸資産

(億円)



2009年8月7日

9

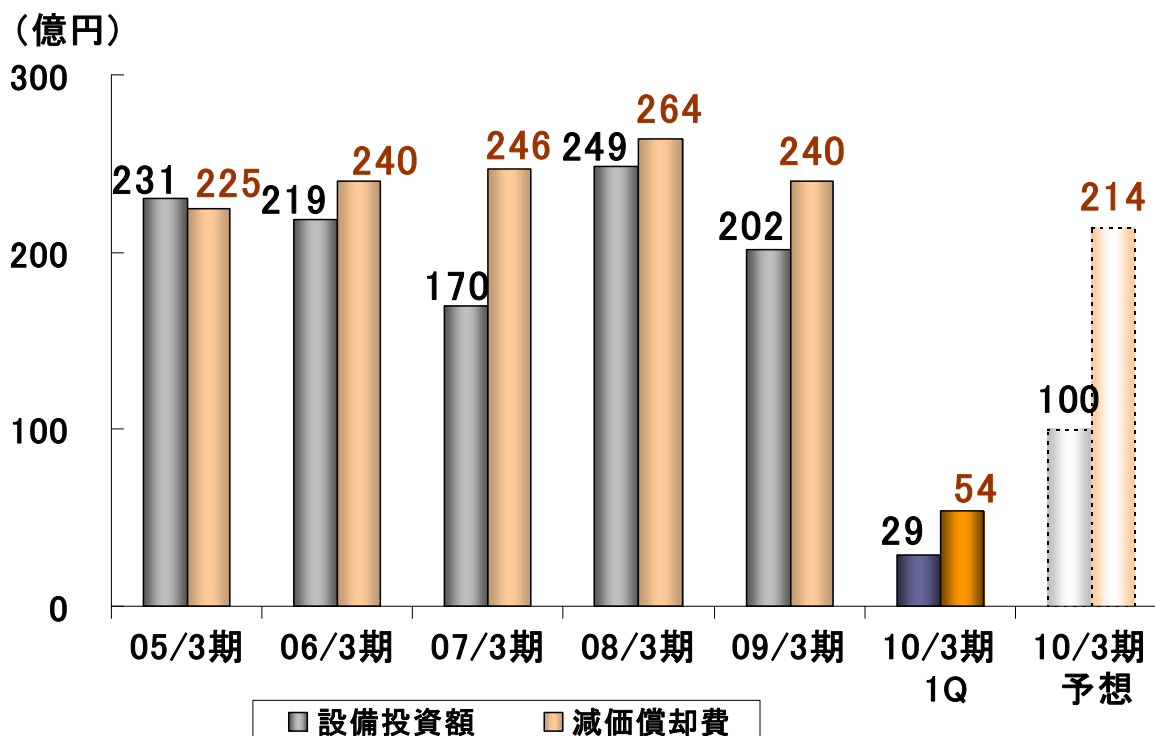


第1四半期は、前第4四半期に比べ17億円減少しました。

これは、第1四半期も一部在庫調整が進展したことに加え、生産数量の増加によって製造原価が低下していることも影響しています。

今後も適正在庫の維持に努めていきます。

年推移 設備投資額・減価償却費



※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

2009年8月7日

10



第1四半期の設備投資額は、29億円でした。

主な投資先としては、設備の保守・更新投資などがありました。

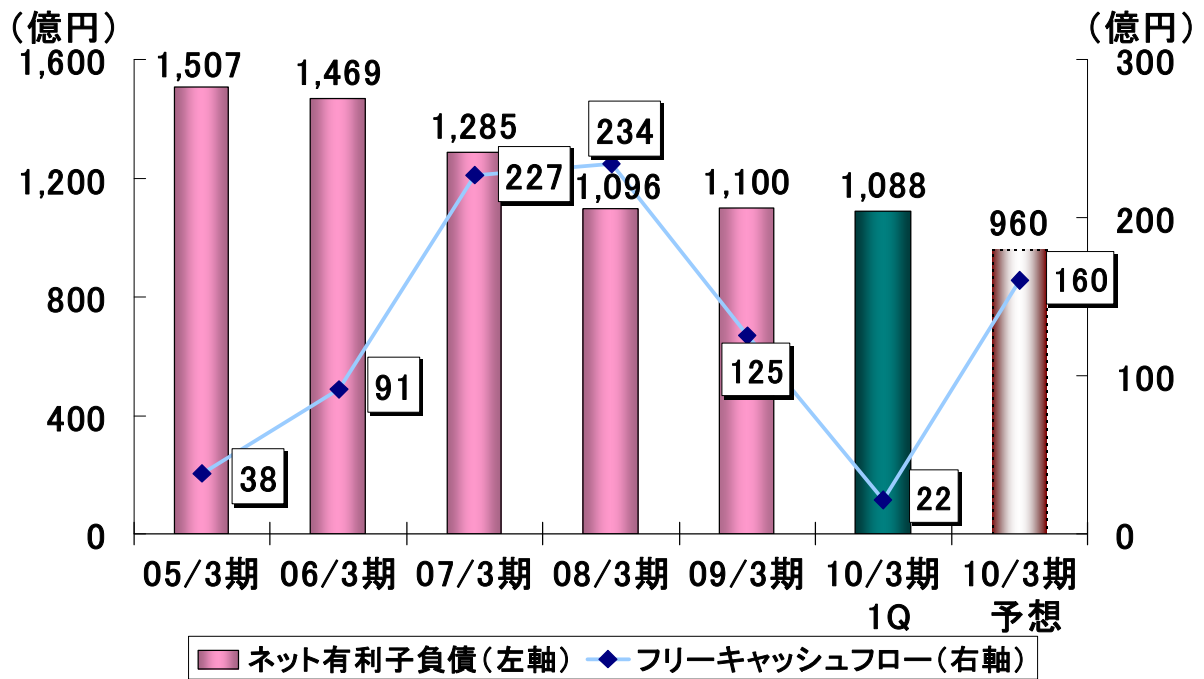
通期予想につきましては、100億円の計画から変更はありません。

今後の成長に必要な投資は継続していきますが、不要不急の投資を抑制することにより、投資効率の向上とフリーキャッシュフローの維持・向上を図ってまいります。

減価償却費は、54億円でした。通期予想は、214億円の計画から変更はありません。

年推移

ネット有利子負債



ネット有利子負債 : 有利子負債合計－現預金
フリーキャッシュフロー : 営業活動CF＋投資活動CF

2009年8月7日

11



第1四半期末のネット有利子負債は1,088億円と、前期末から12億円の減少となりました。また、第1四半期のフリーキャッシュフローは22億円となりました。

今後ともキャッシュフロー創出に注力し、フリーキャッシュフローの増加を目指してまいります。一方で、経営環境を総合的に判断し、新たな投資案件、株主還元なども検討してまいります。

業績予想

期初業績予想からの変更はありません

(百万円)	2009年3月期		2010年3月期予想				
	通期	上半期		下半期		通期	
		上限	下限	上限	下限	上限	下限
売上高	256,163	105,500	96,000	124,500	104,000	230,000	200,000
営業利益	13,406	3,500	1,800	10,500	8,200	14,000	10,000
経常利益	11,555	2,200	600	9,100	7,000	11,300	7,600
税引前利益	6,834	2,200	600	8,900	6,800	11,100	7,400
純利益	2,441	800	△700	5,700	4,200	6,500	3,500
一株当たり 純利益(円)	6.18	2.06	△1.80	14.65	10.80	16.71	9.00

為替レート	09/3期	10/3期想定
US\$	100.83円	91.00円
ユーロ	145.65円	128.00円
タイバーツ	2.98円	2.60円
人民元	14.64円	13.00円

2009年8月7日

12



世界同時不況の影響を受けた前第3四半期からの急激な販売の減少は、前第4四半期で底を打ち、当第1四半期では販売も総じて増加に転じました。第2四半期でもさらに販売は増加するものと見込まれます。

また、原材料価格についても、鋼材価格の改定交渉が決着しほぼ当初の見込みに近い影響が予想されます。

今下半期以降については、依然として見通しの不透明感が残るものの、ほぼ計画の範囲で推移するものと考えています。

以上のようなことから、今期業績予想については、5月に発表したものを現段階では変更いたしません。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。

実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2009年8月7日

